



はなく、「ならば、それを生かそう!」と考えました。自分の個性を否定的に見るのではなく、前向きに受け入れて活動した結果、ブレイクしたのが「ウェーイ」という軽いノリの芸風でした。受け取り方次第で結果が変わり、上手くいくことは、たくさんあると思います。

子ども向けにも活動されていますね。

平成23年頃から、子ども向けのイベントやライブ、動画配信を始めました。僕は、ライブやイベントで、みんなの名前に「ピーヤ」を付けて呼んでいます。性別や年齢に関係なく、「仲間」という意味です。そして、子どもたちに対して意識していることは、「否定しない」ということです。この前のライブで、とあるお子さんに将来の夢を聞いたら、「人を食べるバケモノになりたい」と返ってきました。「え!

受け取り方次第で世界は変わる。

自分の良さを信じて!

人を食べちゃダメだよ」と言いたくなるのですが、「それってどんなの?」と聞くと、その子

の自由で面白い世界が広がっていました。子どもの考え方は自由です。大人の感覚で否定せず、受け入れたほうが面白いですし、子どもの可能性も広がると思います。

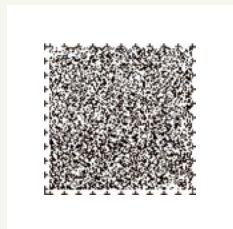


お仕事で時代の変化を感じることはありますか?

この10年くらいで女性の芸人がとても増えたと感じます。昔は、お笑いの界に女性がいることはめずらしいと思っていました。ですが、今では当たり前です。テレビの制作現場なども、昔は男性が多かったのですが、スタッフやディレクター、構成作家など様々な立場で女

性が増えていきます。その結果、働き方や現場の雰囲気も変わってきました。また、子どもたちに「将来、何になりたい?」と聞くと、昔は「ケーキ屋さん」と答える子には女の子が多かったのですが、今は性別に関係なく、女の子が消防士だったり男の子がパティシエだったりします。

大人も子どもも、そして世の中も、変わってきているということだと思っています。だから、みんなも、前向きに好きなことに挑戦してほしいです。



※このインタビューは、令和4年12月1日に行いました。